

## 活動紹介

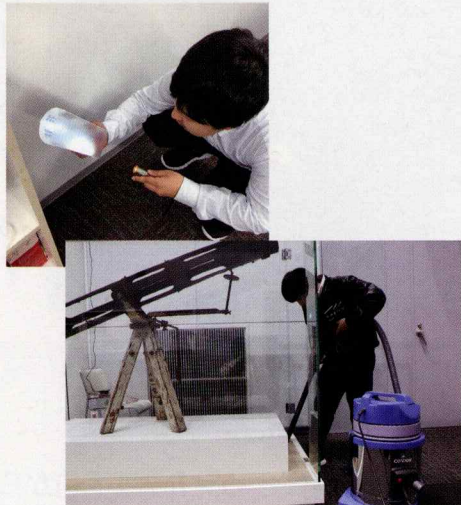
### 博物館はなぜ飲食禁止なの？

皆さんはなぜ館内が飲食禁止となっているかご存じですか？飲食しながら観覧したいな、という方もいらっしゃるかと思います。今回は飲食禁止の理由と当館での取り組みなどをご紹介します。

飲食禁止の一番の理由は、食べかすや飲み物が虫の誘引やカビの発生につながってしまうからです。こういったことが起こると、資料が食べられて穴があいたり、カビによる変色の発生など、破損の原因となってしまいます。

そうならないようにするための対策の1つとして、館内の各場所に粘着トラップを毎月設置し、資料を食べる虫(文化財害虫)やそうでない虫の発生状況を調査をしています。その結果などを参考に、侵入経路や虫の発生しやすい時季、特に注意しなければいけない場所を割り出し、清掃の優先場所を決めて各場所の点検や処置を効率的に行っています。このように館内に入ってきた有害生物をさまざまな手法を組み合わせることで制御し、資料に被害が及ばないようにしているのです。

それでも、他分野にわたる全ての資料を永遠に保存できるわけではありません。少しでも長く、未来へつないでいけるように日々格闘し取り組んでいますので、皆さんもぜひ資料を守るためのご協力をお願いいたします。



### 植物標本レスキュー活動

当館では、令和2年7月豪雨で被害を受けた「人吉城歴史館」の植物標本をお預かりし、修復作業を行っています。これらは熊本の植物研究者・前原勘次郎氏のコレクションです。前原氏は教諭として勤務する傍ら、熊本県南部の植物について研究し「南肥植物誌」を著すなどの業績を残しており、当館にも前原氏が採集した植物の標本が収蔵されています。

今回、浸水によって被災した標本は全部で3万点以上。その中には貴重な標本も多数含まれており、腐敗やカビの発生を防ぐため、早急なレスキュー活動を行う必要がありました。熊本県博物館ネットワークセンターにより人吉城歴史館から運び出された被災標本は、西日本自然史系博物館ネットワークを通じて、全国の博物館や大学などに保管・修復が依頼され、約40施設の協力によって標本レスキューの支援活動が行われています。当館もこの活動に参加し、8月下旬より修復作業を開始しました。標本の被災状況は、泥をかぶっていたり、カビが生えていたりさまざまです。一つ一つの標本の状態を確認しながら、細心の注意を払って、筆を使い汚れやカビを丁寧に落とし、エタノールで消毒を行います。その後、吸水紙や新聞紙、段ボールで挟んでしっかりと乾燥させます。水に濡れたことによってもろくなっていたり、葉が溶けかけたりしているものもあり、かなり慎重な作業となっています。

少しでも本来の状態に近づけ、今後も熊本の貴重な資料として保存・活用していきます。



# くまはく NEWS LETTER

Vol. 5

ひとのすがた、  
いのりのかたち  
—肖像彫刻の世界—

重要文化財《木造東陵永瑠禅師倚像》  
南北朝時代  
雲巖禅院所蔵(熊本博物館保管)



2020年12月5日(土)

~2021年1月24日(日)

熊本博物館  
KUMAMOTO CITY MUSEUM



肥後の見張り番  
しゃちべえ

- 展示会案内  
ひとのすがた、いのりのかたち—肖像彫刻の世界—
- 展示会報告  
ひらいて、見よう！いろいろな巻物
- 行事・イベント報告  
化石観察会  
夏休みイベント  
博物館実習
- 活動紹介  
博物館はなぜ飲食禁止なの？  
植物標本レスキュー活動



展示会案内

【企画展】ひとのすがた、いのりのかたち—肖像彫刻の世界—

会期：2020年12月5日（土）～2021年1月24日（日） ※12/7・14・21・28および1/4・12・18は休館日、12/29～1/3は年末年始のため休館となります。

熊本市の西方・金峰山山麓に位置する古刹・雲巖禅寺（うんがんぜんじ）。宮本武蔵が参籠し『五輪書』を記したと伝わる霊巖洞があることでも知られています。同寺を開山したと伝わるのが、元（げん）出身の禅僧・東陵永瑠（とうりょうえいよ）（?-1365）です。国の重要文化財に指定されている《木造東陵永瑠禅師倚像（もくぞうとうりょうえいよぜんしいうぞう）》（所蔵：雲巖禅寺、管理団体：熊本市）は、南北朝時代の作品で東陵永瑠の姿を唯一伝える「頂相（ちんそう）彫刻」です。「頂相」とは、禅宗の高僧の姿を表した肖像画や彫刻を指します。また、禅宗以外の宗派でも開宗した僧侶の肖像が信仰のよりどころとして今日まで多く伝えられています。

今回の企画展は、《木造東陵永瑠禅師倚像》を修復後初めて公開するとともに、さまざまな僧侶や武将などの姿を表した肖像彫刻を展示します。実在した、あるいは実在したとされる人物の姿を表すことに込められた人々の祈りに迫ります。

※本展は「令和2年度日本博主催・共催型プロジェクト」のうち、「我が国の美術工芸品等修理の技と自然の原材料を活かした伝承と活用—国宝重要文化財（美術工芸品）保存修理成果の現地公開—」として実施するものです。

【関連イベント】

講演会「仏像の文化財修理について」

日時：12月19日（土）  
13:30～14:30（受付13:00～）

場所：当館プラネタリウム

講師：陰山 修 氏（公益財団法人美術院国宝修理所 所長）

定員：80名（事前申込不要、当日9時より受付にて整理券を配布）

参加費：無料（入場料が必要）

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、中止する場合があります。



本展子ラシ（表）



八代市指定有形文化財 《木造辨善大師坐像》 鎌倉時代 釈迦院所蔵（八代市立博物館未来の森ミュージアム寄託）	初代安本龜八 《木造弘法大師坐像》 明治30年（1897） 本藏院所蔵	林如水 《木造加藤正方坐像》 文化5年（1808） 浄信寺所蔵	（特別出品） 衣笠右兵衛景光 《木造嶋良節坐像》 嘉永2年（1849） 隣船寺所蔵
--	--	--	---

★展示解説★ 12月5日（土）14:00と18:00より展示解説を行います（各回当日先着10名程度/約15分）。各回開始10分前に特別展示室1にお集まりください。

展示会報告

ひらいて、見よう！いろいろな巻物

2020年7月23日（木・祝）～2021年8月30日（日）



夏季ミニ企画展として、「ひらいて、見よう！いろいろな巻物」展を開催しました。本展は普段はその大きさ、長さからほんの一部しかお見せすることのできない巻物資料を、思い切って大きく開いてみた企画展です。

たとえば、「横矢旗」は明治～昭和初期まで熊本城下の一部地域で五月の節句に飾られていたものです。現在よく見られる「矢旗」は、縦型の旗に子どもの名前や武者絵などが書いてありますが、横矢旗はかなり様子が異なります。家の周囲にぐるりと巡らせて飾るという性格上、とても横長い画面構成です。今回の展示では豊臣秀吉の九州平定時における加藤清正の活躍を主題とした横矢旗を、幅4mにわたって展示しました。全部広げるとさらに長く、倍の8m近くになります。今のところ熊本市の一部地域

でしか確認されていない横矢旗。その主題は清正にちなむ戦いのほかに、伝説や神話、戦争などが確認されています。本展では、日露戦争を主題とした横矢旗も展示しました。このほか、江戸時代に国内で知られていた様々な鯨が描かれた「鯨図」なども展示しました。

行事・イベント報告

化石観察会

2020年8月1日（土）



今年も天草で白亜紀の化石と地層の観察会を行いました。7月の豪雨災害の影響で流木の打ち上げが多くて歩きにくい所もありましたが、海岸に降りたとたん立派なイノセラムスの化石が地層から顔を出していたり、アンモナイトの破片やウニの化石が拾えたりと、現場のコンディションは上々でした。化石以外にも海底で地滑りが起きたことを示すスランプ層や、波によってできるリップルマークなど、面白い地層の特徴を観察することができました。更には現生のシカやイノシシの骨も落ちていて、とても発見の多い観察会となりました。

今回は新型コロナウイルスの再流行で定員を少人数に絞った上での実施でしたが、その分参加者の皆さま一人ひとりとしっかりお話しする時間を持つことができたように思います。

夏休みイベント

夏休み期間に合わせた7月下旬から8月下旬まで、博物館ではたくさんのイベントを開催しました。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、事前申込制・人数制限を行った上での実施となりましたが、予想をはるかに超えるご応募・ご参加をいただきました。毎年恒例の自由研究相談では、昆虫や植物、岩石、科学実験、天体に関する事など、今年もさまざまな分野の質問が寄せられ、自分で見つけた生きものや化石、実験結果のまとめ方などについても熱心に聞いている様子が見られました。子ども科学・ものづくり教室では「水中UFOキャッチャーを作ろう」や「コイルモーターを作ろう」など、おもしろい実験や工作が盛りだくさん！液体窒素実験ショーでは、-196℃の世界で起こる不思議な現象を目の当たりにした参加者の方々から、大きな歓声も上がっていました。その他にも、ちりめんじゃこを使った「ちりめんモンスターを探してみよう！」や、お湯で柔らかくなる樹脂で作る「カラフルアンモナイト」、野草の押し花で作る缶バッジやキーホルダーの「押し花グッズ」など、子どもから大人まで多くの方に楽しんでいただくことができたようです。



博物館実習

2020年8月15日（土）～8月20日（木）



当館では毎年、学芸員資格取得を目指す大学生を対象とした博物館実習を行っています。今年度は4月に実習生が決定してから8月に実施するまでの間、新型コロナウイルスの感染流行状況が目まぐるしく変化していったため、実習生やそれぞれの大学と密に連絡を取り、さまざまな感染対策を講じながら6日間の実習を行いました。実習期間中は自然分野・人文分野に分かれ、なるべく多くの実物資料に触れてもらいながら、資料の取扱い方や博物館の実務についてお伝えしました。最終日の課題発表のテーマは「感染症流行中の地域博物館の活動について」。若い世代の実習生たちからさまざまなWEBコンテンツの提案や、既存の活動の改善方法、子ども食堂とのコラボ企画など、個性豊かなアイデアが発表され、我々博物館職員にとっても刺激的な多い実習となりました。